

2024年度

大阪府訪問看護実践研修事業
教育ステーション事業

市南ブロック

訪問看護ステーション ナウロマンティック

藤岡 律子

目標

- 1、多職種向けACP研修を成功させ地域での定着を促進する。
- 2、感染の蔓延や突発的な事態に対応できる訪問看護ステーションや多職種の育成、生活維持に必要な口腔ケア、肺炎予防など在宅支援につなげていく。

研修事業①

- 日時：7月20日（土）
- 場所：南大阪看護専門学校
- 目標人数：51名 / 実績40名
- 気づき：

多職種参加者の関心が高く、グループワークも積極的に取り組まれていた。

アンケート結果では、現場で利用者と家族の思いを引き出すのが難しいため、実際にアプローチできるか不安との意見もあった。

意識しながら訪問することが重要と感じた。

次年度も予定であるが、開催場所を変更してより多くの方が参加できるように考えたい。

広報については、地域の多職種連絡会にも協力していただく予定である。

研修事業②

- 日時：8月19日（月）
- 場所：西成区民センター 2 階研修室
- 目標人数：50名 / 実績44名
- 講義内容：スライド・動画・嚥下動態の確認体験・質疑応答
- 気づき：

口腔ケアと食事評価の必要性や重要性を学習することができたとの感想が多くみられた。

現場ですぐに実践できるように具体的な方法や物品や代替え方法をしたことで利用しやすいと多くの声をいただいた。

少数であるが、職種や経験に個人差があるため、より詳細な部分を知りたいとの声もみられた。

府民への相談支援事業

- 内容： ①脱水予防について ②肺炎予防について
- 開催日： ①7月22日～8月21日 ②11月1日～11月30日
にかけて、事業所や地域住民に配布
- 対象地区：西成区、住之江区
- 方法：地域住民が出入りする近隣のクリニックに置かせてもらう
近隣のデイサービス利用者、訪問利用者や家族に配布
- 配布数：各500枚ずつ
- 気づき：
利用者の目に留まりやすい場所（カレンダーやテレビ、冷蔵庫の近くに
掲示して注意喚起おこない、説明することで再認識することができた。
肺炎予防では、意識はしているが実行することが難しいという反応
もあった。具体的に表現する工夫が必要と感じた。

体験研修

①看護業務

■参加者数：目標 3 名 / 実績 3 名

参加者職種：新規開設ステーションの訪問看護師 1 名
訪問看護師未経験看護師、准看護師 各 1 名

②管理業務

■参加者数；目標 1 名 / 実績 1 名

参加職種：新規開設ステーションの管理者 1 名

■気づき：

利用者の生活環境やケア方法など個人の身体状況や希望を聞き、看護師として何ができるのかを考えながらケアできることが訪問看護の強みに繋がる。

わかりやすく丁寧に説明する事で、安心につながることや限られた時間内であるが 1 対 1 で関われることでしっかりコミュニケーションを図り信頼関係を築ける。

1年間の間に新しいステーションが増えてきている。責任もあるがまずは楽しい部分も感じながら、訪問看護師がリタイアせず継続できるよう支えあえたらと感じました。

電話相談

- 目標35件 ／ 実績35件
- 相談件数：①報酬・請求関係21件 ②実務内容3件
③指示書・記録関係12件 ④精神科関係2件
⑤オンライン請求関係 2件

- 気づき：

ブロック会や各区連絡会で早い段階からこまめな情報交換が行われていたもので相談窓口で混乱することはなかった。

報酬・請求関係の問い合わせが最も多く、「～は可能か」といった確認内容が多くまた事務員を配属していないステーションも多いように推測された。

質問に対しその都度調べた後に折り返し返答することが多かった。

確認する作業が身についたのとスタッフ間でよく相談するようになり大変勉強になった。

コンサルテーション

- ①電話 目標1件 / 実績1件
- ②対面 目標3件 / 実績3件

①オンライン請求方法について（同じソフト使用、操作手順についての内容）
専用パソコンが11月設置であったため、請求経験のあるステーションに相談。

- ②皮膚潰瘍1件、ストーマによる皮膚トラブル2件

皮膚排泄認定看護師に依頼、3件とも利用者宅に同行。

適切な湿潤環境と適切な軟膏での処置方法の指導を受けた。ストーマサイズの測定、パウチの選定、軟膏処置方法の指導を受けた。

- 気づき：

ストーマトラブルは利用者の生活活動を一時的低下につながったり、洗濯物等の負担があるため、早急に解決したい事例であったため早期対応して頂けた。

適切な軟膏の選定や湿潤環境の工夫など、専門的なアドバイスを頂けた。

協力ステーション・協力ナース

【協力ステーション名・所在地・役割やサポート内容】4ステーション

- 天神の森訪問看護ステーション（西成区）研修の広報や当日の手伝い
- 南大阪訪問看護ステーション（住之江区）研修の広報
- 山王訪問看護ステーション（西成区）研修の手伝いや当日の手伝い
- 訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ（住吉区）】当日の手伝い

【協力ナース名・所属・資格・サポート内容等】4名

- 渡辺匡人（ちむ訪問看護ステーション）皮膚・排泄ケア認定看護師：コンサルテーション）
- 佐藤幹恵（天神の森訪問看護ステーション）体験研修・ACP研修サポート
- 西野順子（南大阪訪問看護ステーション）ACP研修サポート
- 田畑志普（訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ）ACP研修サポート

目標に対する評価

- ①ACP研修では、基礎知識を学ぶことができたが実践となると難しく、いくつかのケース事例を通して繰り返し重ねていくことが必要。
研修後は 振り返り自己学習が必要で、初対面よりもまずは関係性が築けている利用者から始めていけたらと思った。
- ②誤嚥性肺炎と口腔ケアについては、歯科医師・医療従事者・介護職・ケアマネージャーと多職種が集まった。
基礎知識を学び明日から生かせるケアや観察方法など、幅広い内容であったためわかりやすく理解できた。
口腔ケアの代替え商品の紹介もあり、取り扱いよく習慣化につなげることができたと思われる。

まとめ

教育ステーション事業をかかわること自体が初めてで、わからないままの状態第一年目が始まりました。

区の連絡会で活動報告、チラシ配布の依頼など地域ステーションの声掛けが多くなってしまい、協力ステーションへの声掛けが少なくなってしまった。

様々な事業を通じてブロック会、役員会に積極的に参加、他地域のステーションとのつながりが増え視野が広がったように感じ、幅広い学びとなりました。

【事業の効果】

電話相談や体験研修では新設ステーションや施設に訪問しているステーションなどの相談窓口としての的確に回答を受けることができるため、非常に有効であると思った。コンサルテーションは認定看護師による指導を直接受けることができ、より専門的に学べるよい機会になったと思われる。

【課題】

2年目、協力ナースと連携して地域に訪問看護師の仕事や役割を知っていただけるよう研修場所を偏らないようにしていきたい。